
遊戯王 スピードクロス

slipstream

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戲王 スピードクロス

【Zコード】

N9264Z

【作者名】

slipstream

【あらすじ】

チーム5d、sと未来人との戦いから数十年後、ライディングデュエルは大きな進化を遂げた。Dホイールから実車型のDRW（Duel Racing Wheel 通称ドロー）に乗り込み、時速300キロオーバーのデュエルの領域に迫る！

プロローグ（前書き）

文法の使い方などが下手で不慣れなところもありますが、『』ア承
ください。この小説では序盤は遊戯王キャラオンリーですが後にク
ロスオーバーとなりますのでそこらへんもご了承ください。それで
はよろしくお願いします。

プロローグ

俺の名前は空見 そらみ 遊英。 ゆうえい。 ちょうど二十歳。

デュエルが好きだった親父が名づけた名前で、デュエルなどで英雄になつてほしいという願いが込められている。

俺は今、ドローのチューニング（車を改造すること）仅仅是ドローを改造すること）ショップで働いている。客もそこそこ来るから休む暇はない。役に立ててうれしいと思うと心が満たされる。だが、そんなことでは完全に心が満たされるわけではない。デュエルはもちろん、レーシングデュエルをすることが俺の楽しみでもある。

レーシングデュエルは従来のライディングデュエルとは全く違う。ルールは基本的に従来と同じ。スピードワールド×という専用のフィールド魔法発動のもとデュエルを行う。変更点は、スピードカウンターがMAXで12個から15個まで溜まるようになった。スピードカウンターを2個取り除くことで自分モンスター1対の攻撃力を200ポイント上げる、5個で自分の手札のスピードスペル（SP）の枚数×300ポイントのダメージを与える、7個でデッキから一枚ドロー、10個でフィールド上のカードを一枚破壊、15個でデッキから2枚ドローという効果がある。当然、レーシングデュエル中はSPしか使用できない。

これが俺の愛車の黒のR35 GT-R（もともと俺の親父のドローだが、俺が18歳の誕生日のときに病気にかかり、最期にこのGT-Rを託し、この世を去ってしまった・・・。そのとき俺は絶望したりもした。だが、いつまでも絶望なんてしてはいられない。未来を見ていきていかないとな。それに、天国の親父にも失礼かな）。スピードメーターなどはなくモニターがある。ドライブモードになればメーターは表示される。デュエルモードでは、ヘルメッ

トに付いていいるマイクでやりたいことを言うとそれに反応してカードをプレイしてくれる仕組みだ。カードを伏せる場合は、ヘルメットが脳をスキャンし、何をしたいかを識別する。レーシングデュエルの際には中にある「デッキホルダー」に「デッキを入れ、デッキ」とスキャンし、そのカードを使用できるようにする必要がある。エクストラデッキのカードもエクストラデッキホルダーに入れてスキャンすればそれらも使用できる。スタンディングデュエル用の「デュエルディスクはトランクに装備されている。ハイブリッド式。

「空見、もう今日はあがつていいぞ。」
「はい、店長。失礼します。」

8時半になる。早く家に帰る。母は遠くで働いていて戻ることはない。かえってまずは飯を食べる（調理くらいはしたことある…）。その後風呂に入り、疲れたから寝るかと思いきや、10時ぐらいに外へ出て、ドローに乗り、ハイウェイへ行く。夜のハイウェイは景色がよくて、疲れも取れる。後ろからセキュリティの車両が通りかかる。

「なんだ、またハイウェイに居たのか。」
モニターに相手の顔が映る。セキュリティの牛尾だ。夜のパトロールのようだ。この人とはよく会う。
「うん、やっぱり夜のハイウェイはきもちいいからな。」
「お前もドローでのドライブが好きなんだな。遊星みたいだな。」
「それもそうだけど、俺としてはレーシングデュエルが一番好きだ。」

「まあお前の気持ちは分かるが、せいぜい事故起こさないよう気をつけろよ。」
「ああ。」

牛尾との会話を終え、十分に走つたところでハイウェイを降りる。

そんな中、一人の民間人が一人のチンピラに絡まれているのを見かける。

「おい！やられたくなれば俺様につよいでつきよこせよー。」

「それは・・・、できません・・・。」

今すぐにドローから降りて、チンピラを止めにかかる。

「おい、そこでなにやつてんだよ。」

「ああ、誰だあお前？」

「まずはそのひとを放してやれ。」

「やだね、強いデッキをもらつてもないのにはなせるものか！」

「デュエルしろ。俺が勝つたら一度とその人に関わるな。」

「はん、上等だコラ。俺が勝つたら貴様のデッキをいたぐからな！」

「いいだろう、ハイウェイに出る。」

二人はハイウェイに出た。まさに戦いの火蓋が機つて落とされようとしている。

22:40 ハイウェイ

「スピードワールドX、セットオン！ー！」

デュエルモード オン

「「レーシングデュエル、アクセラレーション！ー！」」

続

プロローグ（後書き）

いかがでしたでしょうか。プロローグなのでいきなり盛り上げるのもどうかと思いましたのでまだまだ面白くないと思う人も居るかもしれません。不定期更新となりますが、良かつたら楽しみにしていてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9264z/>

遊戯王 スピードクロス

2011年12月28日23時46分発行